

R5 地域林政アドバイザーの取組事例(1) ～熊本県御船町～

- ◆ 熊本県御船町では、森林経営管理制度に係る取組を進める際、町と森林所有者、林業事業体をつなぐ橋渡しの役割を担ってもらうため、**森林組合の職員であった人材**に地域林政アドバイザーの業務を委嘱。
- ◆ アドバイザーは、**前職の豊富な経験を業務に活かして**、森林経営管理制度や森林環境譲与税に関する業務のみならず、補助金交付に関する業務も担当。

アドバイザーの基本情報 【個人委嘱】

- ・ 氏名：高添 孝司
- ・ 履歴：前職は森林組合職員で33年間勤務。平成31年4月に地域林政アドバイザー就任。任期付職員。年齢60代。

アドバイザーになったきっかけ（委嘱に至った経緯）

- ・ 熊本県御船町では林業の専門職員が不在であったため、森林組合を退職するときに、「森林経営管理制度が始まるので林務行政に従事してほしい」と、**町から誘いを受けた**。
- ・ 森林組合時代に地域の人たちに育ててもらった恩義や、地域の森林所有者とのつながり、森林の所在地や境界の知識など、**今までの経験が地域林業の役に立つのであればと考え**、引き受けた。



（アドバイザーの高添氏）

一日の業務の流れ（一例）



（地区説明会）

業務の主な内容

森林経営管理制度の取組

- ・ 年間約200haの意向調査を進めるため、地区説明会（個別訪問）を開催した上で、現地でGPS測量による境界調査と森林の状況調査を行っている。
- ・ 意向調査の結果、個人では整備が困難であり、木材の搬出が困難な箇所（町独自の補助事業）年間約20haを林業事業体につなぎ、補助申請確認から検査、支払までを行っている。

森林環境譲与税の取組

- ・ 安全装備品購入、蜂アレルギー対策、熱中症対策及び雇用奨励金の補助申請確認から検査、支払までを担当している（7林業事業体）。また、クヌギ林整備支援対策として、椎茸種駒購入の補助申請確認から検査、支払までを担当している（1団体4個人）。

補助金交付要綱作成

- ・ 令和元年度から年2回程度、林業事業体等との意見交換を行うとともに、必要な補助事業の要綱（案）を起案し、法令審議会の説明、要綱の制定までを行っている。



R5 地域林政アドバイザーの取組事例(1) ～熊本県御船町～

みふねまち

アドバイザーとして特に力を入れている点

- 子孫への相続に必要な境界の把握や森林の手入れに必要なことを町の事業に反映させていくこと、林業事業体の方々が安心して働け、将来の夢が持てるような事業システムを作ること、新しい人材が勤めやすいような環境を整えること、災害に強い森林づくりを進めていく施策を作ることを通して、**地域の森林所有者や林業事業体の支えとなり、町の森林・林業全般が前に進むことに、特に力を入れている。**



(林業事業体との連携)

今後の展望

- 幅広い関係者の参画の下、森林・林業の課題を明らかにした上で、将来の目標を定め、**目標達成のための方針（基本計画）を策定していくことに注力したい。**



(境界調査作業)

アドバイザーとしてのやりがい

- 前職での33年間の経験が活かされ、森林所有者、森林の場所、境界がある程度分かることで、境界調査をスムーズに行うことができ、**所有者から「助かった」という声をいただけたことや、森林経営管理制度について、町独自のやり方を考案し、それにより森林整備が進んでいること、林業事業体にとって難しい事業の事務手続を寄り添いながら手伝い、年々レベルアップが図られてきたこと**などにやりがいを感じている。

御船町としてのアドバイザー制度活用による効果・メリット

- 専門的な知見から林務行政全般に渡って起案から執行、予算管理までに従事し、**町の林務行政のレベルアップに貢献している。**

御船町参考データ

林野率	56.2 %
森林面積	5,568 ha
私有林人工林面積	2,489 ha
林務行政の実施体制	林務担当職員 1人（地域林政アドバイザー 1人）
アドバイザー経費の財源	特別交付税措置
アドバイザーの基礎情報	資格:研修受講 経歴:元森林組合職員 形態:個人委嘱



R5 地域林政アドバイザーの取組事例(2) ～静岡県掛川市～

かけがわ

- ◆ 静岡県掛川市では、森林施策に広く取り組むに当たり、専門的な知識と経験を持つ人材が必要と考え、**林野庁職員であった人材**に地域林政アドバイザーの業務を委嘱。
- ◆ アドバイザーが前職で培った専門的な知識や技術を活かし、協議会の設置や森林環境譲与税、森林経営管理制度の業務を進めるのみならず、補助事業や林務行政に対する**幅広いアドバイス業務も担当**するなど、市の森林施策に幅広く関わっている。

アドバイザーの基本情報 【個人委嘱】

- ・ 氏名：吉澤 英樹
- ・ 履歴：前職は林野庁職員で41年間勤務。平成31年4月に地域林政アドバイザー就任。会計年度任用職員。年齢60代。



(アドバイザーの吉澤氏)

アドバイザーになったきっかけ（委嘱に至った経緯）

- ・ 掛川市から地域林政アドバイザーの活用要望が出ていたことから、自身が退職時期を迎えていたことや**地元で林業関係業務に従事して貢献できればと考えていたことを契機**にアドバイザーに応募した。

一日の業務の流れ（一例）



(掛川市森林経営管理推進協議会)

業務の主な内容

掛川市森林経営管理推進協議会

- ・ 令和元年9月から、自らが提案し、広く市民の意向を把握することができる組織として「掛川市森林経営管理推進協議会」を設置。メンバーの半分は森林・林業関係者、もう半分は一般市民で構成。毎年6回、森林・林業、森林経営管理制度、譲与税事業等について話し合い、市への助言等を行っている。

森林環境譲与税の取組

- ・ 市として譲与税をどのようなものに充てていくかについて、ガイドラインを作成。財政部局等への説明資料としても活用できるようにした。

森林経営管理制度の取組

- ・ 意向調査は防災上局所的に必要な箇所を優先して実施。可能な箇所では集積計画を策定し、集積計画が策定できない森林は、森林整備協定を締結して、市による森林整備を行っている。

おかえり「森林」総合対策事業

- ・ 令和4年度から「自分の山は自分で」というコンセプトのもと、森林整備、木材活用、境界確定等をはじめとした8つの補助事業（総称「おかえり『森林』総合対策事業」）を展開している。



R5 地域林政アドバイザーの取組事例(2) ～静岡県掛川市～

かけがわ

アドバイザーとして特に力を入れている点

- 森林・林業行政に対する幅広いアドバイス業務を担当しながら、職員の勤務状況に応じて行政の通常業務にも幅広く対応することに力を入れている。

アドバイザーとしてのやりがい

- 林野率が低く、森林・林業関係者も少ないことから、森林に関わる機会や住民が多くない市で、どのように森林や森林整備のことを伝えることができるかを試行錯誤している。
- 地に着いた事業を実現しながら、地域の森林・林業・木材産業に尽力できることにやりがいを感じている。

今後の展望

- ホームページ、広報誌、パンフレットを通じて、森林環境譲与税の活用効果等の周知徹底をさらに行っていききたい。
- 地域の森林・林業の推進組織の整備、民間主導の市内関係業界の推進組織の構築などを通じて、全市的な取組として、関係者のネットワーク化を行っていききたい。



(おかえり「森林」総合対策事業による整備前)



同上（整備後）



同上（木材活用促進）

掛川市としてのアドバイザー制度活用による効果・メリット

- 経験と専門的な知見から林務行政全般に渡ってアドバイスを受けることができ、市の林務行政のレベルの向上に貢献している。特に、森林管理経営制度の円滑な運用、森林環境譲与税の有効な活用が進むとともに、森林・林業関係者の連携が図られるようになった。

掛川市参考データ

林野率	43 %
森林面積	11,250 ha
私有林人工林面積	6,695 ha
林務行政の実施体制	主幹兼務1名、主任1名、地域林政アドバイザー1名
アドバイザー経費の財源	特別交付税措置
アドバイザーの基礎情報	資格:技術士(森林部門) 経歴:元林野庁職員 形態:個人委嘱



R5 地域林政アドバイザーの取組事例(3) ～青森県三戸町～

- ◆ 青森県三戸町では、林務行政の人員体制が厳しい状況の中、森林・林業施策へのサポートが必要と考え、**広域森林組合の職員であった人材**に地域林政アドバイザーとしての業務を委嘱。
- ◆ アドバイザーは、前職の専門的な知識や知見を活かして、**林業全般の業務に従事するのみならず、広域的に活躍**することにより、三戸町だけでなく青森県の林務行政のレベルアップにつながっている。

アドバイザーの基本情報 【個人委嘱】

- ・ 氏名：大澤 仁志
- ・ 履歴：前職は広域森林組合職員で34年間勤務。平成31年4月に地域林政アドバイザー就任。臨時職員を経て、令和2年4月から任期付職員。年齢50代。



(アドバイザーの大澤氏)

アドバイザーになったきっかけ（委嘱に至った経緯）

- ・ 森林・林業に係る施策を進めるに当たり、林務担当職員の人員体制や、専門的な知識などのノウハウが不足している中、三戸町でも人員体制が厳しく、職員は農業と林業の仕事を兼務していた。
- ・ **広域森林組合を退職して、求職中だった時に声がかかり**、今まで培った知識を活かし、自分の住んでいる町や地域に貢献したいと考えて応募し、平成30年4月に採用となった。
- ・ 採用後、アドバイザー研修を受講し、平成30年10月から臨時職員の「林政アドバイザー」、**平成31年4月から「地域林政アドバイザー」**、令和2年4月から任期付職員となった。



(親子植林体験)

一日の業務の流れ（一例）



業務の主な内容

- ・ 市町村森林整備計画、森林経営計画の認定、伐採・造林届の受付、新たな森林所有者の届出、林地台帳の整備、森林経営管理制度の取組、森林環境譲与税の取組、町有林整備、木の駅プロジェクト事務局、緑化推進、森林病虫害防除、ウルシ造林事業の推進など、**林業全般を業務として行っている**。

R5 地域林政アドバイザーの取組事例(3) ～青森県三戸町～

アドバイザーとして特に力を入れている点

- ・ 全国初の取組として、令和4年度から森林経営管理法に基づく**所有者不明森林の特例措置を活用した業務**に励んでいる。
- ・ 平成30年より、放置された林地残材を買取り地域通貨で支払う仕組みである「**木の駅プロジェクト**」の**事務局としての業務**や、森林環境譲与税の使途内容の町民への周知・広報業務にも力を入れている。
- ・ 近隣市町村の林務担当者にもアドバイスをすることが多くなっており、**広域的なアドバイザーとして活動すること**にも注力している。



(所有者不明森林特例措置の対象林分)

アドバイザーとしてのやりがい

- ・ 町の約64%が森林で、普段感じられない森林の必要性や大切さを森林所有者以外の老若男女にも広く知ってもらいたいと考えている。前職の知識や経験を活かすことで、**地域の林業振興に助力できること**にやりがいを感じている。



(木の駅プロジェクトによる林地残材活用)

今後の展望

- ・ 従前から課題となっている森林整備、木材利用に加えて、今後は、**林業従事者の減少対策についても注力**し、林務行政の円滑な実施を図っていきたい。
- ・ 後継者の育成にも注力したい。

三戸町としてのアドバイザー制度活用による効果・メリット

- ・ 前職で培った専門的な知見から林務行政全般に渡ってアドバイスをを行い、**三戸町だけでなく青森県の林務行政のレベルの向上**に貢献している。

三戸町参考データ

林野率	64.1 %
森林面積	9,734 ha
私有林人工林面積	5,113 ha
林務行政の実施体制	林務担当職員 1人、地域林政アドバイザー 1人
アドバイザー経費の財源	特別交付税措置
アドバイザーの基礎情報	資格:市町村林務担当者(実務)研修受講 経歴:元広域森林組合職員 形態:個人委嘱



R5 地域林政アドバイザーの取組事例(4) ～岩手県西和賀町にしわがまち～

- ◆ 岩手県西和賀町では、**地域おこし協力隊員**として活動していた人材に、地域林政アドバイザーとしての業務を委嘱。
- ◆ アドバイザーは、地域おこし協力隊員として、林業作業、実務知識の習得、町内山林の状況把握等を行ってきたことを下地に、事務補助等を通じて信頼感を重ねてきた。**地域林政アドバイザーへ転身後は、幅広い業務に従事**して、町の森林施策の円滑な実施につなげている。

アドバイザーの基本情報 【個人委嘱】

- ・ 氏名：金子 光雅
- ・ 履歴：前職はシステムエンジニアで9年半勤務。地域おこし協力隊員として3年間の経験を経て、令和2年4月地域林政アドバイザー就任。会計年度任用職員。年齢40代。



(アドバイザーの金子氏)

アドバイザーになったきっかけ(委嘱に至った経緯)

- ・ 木炭を焼くため、前職(システムエンジニア)を退職し、岩手県へ移住。白炭の窯づくりと炭焼きを経験する中で、木炭づくりのために山づくりの必要性を感じ、**地域おこし協力隊員**となる。
- ・ いわて林業アカデミーへの通学、林業作業実践、事務作業補助等を経て、令和2年度に、**西和賀町から打診されて、地域林政アドバイザーへ転身**した。

一日の業務の流れ(一例)



(炭焼きの様子)

業務の主な内容

町有林管理

- ・ 約1,500haある町有林を対象に、令和2年度から森林経営計画を作成。森林経営計画を作成する際、QGIS上に施業範囲を記載することで、施業範囲の精度の向上に努めている。

森林バイオマス利用促進

- ・ 地域内エコシステム協議会の運営に関わる業務や、事務局への申請書作成などを担当。

森林環境譲与税の取組

- ・ 町内を2つ(旧市町村)に分けて実施する経営管理意向調査、花巻市・西和賀町・岩手南部森林管理署と共同で実施する航空レーザー計測、間伐・更新伐・作業道作設・土場の整備をメニューとする民有林整備促進事業、小学校での座学や、伐木デモンストレーション、薪割体験等での講師を行う森林環境教育に、森林環境譲与税を充てて取り組んでいる。



R5 地域林政アドバイザーの取組事例(4) ～岩手県西和賀町にしわがまち～

アドバイザーとして特に力を入れている点

- 森林経営計画や森林バイオマス関係などの**新しいことへの挑戦**や、伐採など林業作業の実践を通じた実務技術を下地にして、**森林経営計画を作成すること**などに力を入れている。



(森林環境教育)

アドバイザーとしてのやりがい

- 町有林の森林経営計画の立案は試行錯誤の連続だが、だからこそ手ごたえを感じることができている。
- 森林環境教育を通じて子供たちが木に対して驚きをもって接する姿に触れることで、**森林や林業の可能性を逆に感じさせてもらっており**、やりがいとなっている。



(同上)

今後の展望

- これまでは、いわて林業アカデミーでの勉強や、地域おこし協力隊員から地域林政アドバイザーを通じて、その時々で新しいことに挑戦してきた。
- 今後は、**今までやってきたことを整理**の上、QGISの利用などを多くの人へ普及していきたい。
- 自伐型林業の一環として、**自身の森林整備作業への注力**もしていきたい。



(自身の森林整備作業)

西和賀町としてのアドバイザー制度活用による効果・メリット

- 地域おこし協力隊員時代からの経験や積み重ねを活かし、林務行政の推進に加え、災害後の対応の際の現場作業、一定の経験が必要な森林経営計画の作成などに、**継続して業務に関わって頂いていることが大きなメリット**となっている。

西和賀町参考データ

林野率	90.2 %
森林面積	53,285 ha
私有林人工林面積	6,075 ha
林務行政の実施体制	林務担当職員 2人、 地域林政アドバイザー 1人
アドバイザー経費の財源	森林環境譲与税
アドバイザーの基礎情報	資格：岩手県地域林政アドバイザー養成研修受講 経歴：元地域おこし協力隊員 形態：個人委嘱

